

みんな

よくなれ

令和四年十一月八日発行

29回生通信
第10号

発想の転換

三組担任 辻 英夕希 先生

「人間の悩みは、すべて対人関係の悩みである」
こう断言されたとき、皆さんならどう反応しますか。私の場合は「いやいや、人の悩みがそんなたったひとつのカテゴリーに収まるはずない」でした。私と同じく素直にその言葉を受け止めきれない『青年』はこう憤慨します。「すべてが対人関係の悩みだというのは、いくらなんでも極論です！あなたは対人関係から切り離された悩み、個人が個人としてもがき苦しむような悩み、自己に向けられた悩みをすべて否定されるのですか!？」と。

冒頭の言葉は、ウィーン出身のアルフレッド・アドラーにより提唱された心理学の根底に流れる概念です。世界各国で翻訳された書籍『嫌われる勇気』は、自らを劣等感の塊のような男と称する悩み多き青年と、彼にどんな反応をされようと、いたって冷静な哲人による会話形式で展開されます。青年は容姿、学歴、職業などすべてに自信が持たず、自分は無価値だと考えています。しかし、哲人は、劣等感是他者との比較(対人関係)の中で生まれた主観的なもの(思い込み)でしかなく、それが短所なのか長所なのかは、自分で選択することができると言います。ダイヤモンドも紙幣も社会的には価値があるけれど、もしこの世界に自分ひとりしか存在しなければ、ただの石ころと紙切れ。人間は誰しも自分が意味付けした世界で生きており、その世界は他の誰も見る事ができません。

先日、人権に関するLHRで短所のリフレミングが行われました。自分ではただの弱みだと思っていた部分も、友人の手に掛ればそれが一瞬で強みに変わったという人もいたのではないのでしょうか。私たちは、主観的な世界からは逃れられませんが、それゆえに、自分のものの見方を変えれば、ライフスタイルががらりと変わります。今この瞬間に選択し、自己を形成しているのは他ならぬ自分自身です。「人生は自分で決められる」という個の力をプラスに働かせるか、マイナスに働かせるかはあなたの手委ねられています。
大切な自分がどうしたいのかに耳を傾け、一歩ずつ進んでいきましょう。



芸術鑑賞会

今年の芸術鑑賞会は、狂言を鑑賞しました。演者は、大蔵流善竹会の皆様でした。実施日は、第三回定期考査最終日の翌日、二十一日の金曜三・四時間目でした。

まず、公演前に、「狂言の楽しみ方」を説明していただきました。また、狂言の所作について稽古もつけていただきました。
演目は、「蟹山伏」と「棒縛」でした。狂言は、初めて見るという人が多かったのですが、どちらの演目も十分に理解できていたようでした。六百年もの間、受け継がれてきた伝統芸能の魅力に触れる経験となりました。



初めての狂言

一組 尾形 京香 さん
尾崎 梨乃 さん

今日は初めて狂言を見ました。映像では見たことはあったけれど、実際には見たことがなかったので、すごく迫力があり面白かったです。狂言を見る前にレクチャーをしてもらいました。礼と笑いの仕方を教えてもらい、実践しました。礼は手をおなかより少し下にそえて、肘と膝を曲げ、体を傾けることを意識してあいさつをしました。笑い方は、ハハと伸ばしてハッハッハッハッとだんだん声を高くしていくのが特徴的でした。「蟹山伏」を見たときは、蟹が思っていたよりもリアルだったの、びっくりしました。蟹と山伏のやり取りもたくさん見どころがあり、見ていてすごく楽しかったです。「棒縛」を見たときは、どんな状態であっても、お酒を飲もうとする姿勢がすごいかと思いました。ほぼ全員の生徒が、狂言を見ることが今回初めてで、すべての言葉を理解することはできませんでしたが、雰囲気を感じて楽しむことができました。貴重な体験ができ、少しだけ狂言を身近に感じることができました。

日本の文化「狂言」

二組 植田 賢斗 さん
緒方 千紗 さん

今日の芸術鑑賞会で目にした大蔵流狂言は、ほとんどの人が聞いたことも見たこともなかったと思います。私自身中学生の時に一度狂言を見ましたが、古文調で何を言っているのか、何をしているのかわからず、あまり良い印象ではありませんでした。しかし、いざ説明を聞いてみると、少し難しそうないメージのあった狂言も面白そうだと感じました。基本となる構えの姿勢や、笑い方に礼の仕方などを教わり、実際にみんなでもやってみました。みんな楽しんで取り組むことができ、その後の演目に期待が高まりました。

狂言を見ると、全てのセリフを理解できなくても、表情や声の緩急などで、今がどのような状態なのかわかり、面白いと感じました。また、狂言では普段の二つひとつの動きが強調され、目に止まりやすい特徴的な形になっているなど思いました。どちらの話も内容がわかりやすく、みんなでもやっていた動作・仕草も登場し、どんどん引き込まれていきました。
今日のように、あまり触れることのない日本の伝統芸能をこれからも、学んでいきたいです。



狂言を鑑賞して

三組 光本 らな さん
矢巻 朋佳 さん

今日は私たちのために公演を開いてくださり、ありがとうございました。狂言を直接見ることや、狂言のお稽古は、ほとんどの人にとって初めてのことで、とても貴重な体験になったと思います。「蟹山伏」では、カニの横歩きや手の動きが一目でカニだと理解できました。とてもかわいかったです。「棒縛」では、棒にくくりつけられた不恰好な姿が、とてもおもしろかったです。くくりつけられてもお酒を飲もうとする執着の強さに、思わず笑ってしまいました。古い言葉遣いでしたが、動きや衣装などによって内容が理解しやすく、狂言を以前よりも身近なものに感じることができました。また、当時の服装や職業など、歴史の授業で習ったことを、より深く具体的に知ることができた良い機会になりました。今後また狂言を見る機会があれば、これまでもっと楽しみたいと思います。

芸術鑑賞会を通して

四組 伊藤 葛 さん
溝川 優 さん

今年の芸術鑑賞会は、大蔵流の皆さんによる狂言でした。生徒の中には、初めて観るという人も多く、私たち自身、少し難しいかなと思っていました。とても楽しむことができました。最初に狂言の楽しみ方について解説していただきました。特に立ち方と笑い方については、体験を通して学ぶことができました。一つ目の演目は「蟹山伏」でした。蟹らしい機敏な動きや強力な痛がる様子、山伏の怖がりな感じが、呪文を唱え続ける様子など、細かなところでも、思わず笑みがこぼれました。二つ目の演目は「棒縛」でした。太郎冠者と次郎冠者の軽妙なやり取りや、どうにかして酒を飲もうとする滑稽な姿勢に引き込まれてしまいました。二人が酒を飲んでいたことが、主人にばれてしまわないか、見ている私たちがドキドキしました。今回の芸術鑑賞会で、狂言について多くのことを知ることができました。このような機会を設けていただき、日本人として良かったと思います。ありがとうございました。

狂言

五組 浦川 凜菜 さん
西脇 千陽 さん

はじめて狂言を見ました。おもしろかったです。狂言を体験できて、すごく良い経験になったなと思いました。狂言について、はじめはほんまにおもしろいな、と疑っていたけれど、実際に狂言を体験してすごく楽しかったです。「蟹山伏」でのカニの登場の仕方が、想像していたのと違っておもしろかったです。すごく忠実にカニの動作が表現されていました。「棒縛」では、お酒を酌むために必死に頑張っていて、その必死さが伝わってきました。どちらの狂言もほんまにおもしろくて、見ていてとても楽しかったです。声を大きく出す方法も知ることができて、日常でも役に立ちそうだと思います。大学入試の面接や、就職のときに活かそうと思います。日本の伝統文化を大切に、これからも生活をしていきたいです。来年の芸術鑑賞会も楽しみたいです。



第三回高大連携授業

十月二十五日（火）に、29 回生を対象に第三回高大連携授業が行われました。場所は、第一・二回と同じ、先端科学技術支援センターでした。運営についても、これまでと同じように、司会、講師紹介、謝辞、記録、マイクなどの役割を生徒が担当しました。

今回の講師の先生は、兵庫県立大学天文科学センター准教授の石田俊人先生でした。講演のテーマは、「明るさが変わる星から何がわかるか」でした。

先生のご専門は天文学です。膨らんだり縮んだりして大きさが変わることで、明るさが変わる恒星について、数式やコンピュータ上のモデル計算などを行いながら、理論的に理解するための研究をされています。特に対象となる恒星での共鳴や非線形と関連した現象を研究されています。ご講義では、先生の専門領域について話されました。そのため、難しい内容を含んでいました。全体での質疑応答では、誰一人手が上がらなかったために、司会者が質問をしていました。質問をするのにも、何を質問すべきかが分かりにくかったのかもしれない。ところが、講演終了後には、壇上に残っておられた石田先生の元に、五人ほどの生徒が列を作りました。石田先生の専門に関わる講義でしたが、興味を持って、なおかつ疑問を抱きながら聞いていた 29 回生がいたことが分かりました。

お忙しい中、ご講演をいただいた石田先生に感謝申し上げますとともに、運営に携わってくれた 29 回生にも感謝します。

- 運営担当者
- 司会 五組 中井 翔一郎
 - 講師紹介 五組 中島 輝
 - 謝辞 一組 山本 一颯
 - 記録 一組 富谷 琉成
 - マイク 三組 増田 類
- ※敬称略

司会をした感想

切実なお願い 五組 中井 翔一郎 さん

今回の高大連携授業は天文学。僕が自然科学の中で最も好きなテーマの一つであり、授業をとて楽しんでいました。石田先生の脈動変光星の講義はともおもしろく、自分の知識をさらに深めることができました。これからの自分の進路についても考えることができ、良かったと思います。僕から一つ切実なお願いがあります。質問タイムの時に、みんな黙り込んでしまうのは、ダメーじが大きいのでやめてほしいです。



着こなし講座

十月二十八日（金）の七時間目に、29 回生を対象に中学校の夢創館で「標準服着こなし講座」が開催されました。29 回生は全員が標準服で講座に参加しました。

講座の初めには、小倉校長先生が挨拶をしてくださり、先生はそのまま最後まで一緒に受講もされました。



講師の先生は、菅公学生服株式会社の中島真彦様でした。また、菅公学生服からは、重栖（おもす）辰介営業部長様も来てくださいました。この講座の開催にあたっては、標準服の販売店である「カナジ制服」の金治秀明様が事前の打ち合わせの労を取っていただきました。さまざまな方々のご協力で、着こなし講座が実施できました。感謝申し上げます。

講座では、まず最初にメラビアン法の紹介がされました。コミュニケーションにおいて印象に残る要素は、以下の通りだそうです。

- 服装・顔などの外見 55%
- 声・話し方など 38%
- 話の内容 7%

服装などの外見で第一印象が決まってしまうようで、内面が大切なものでも、標準服はオフイシャル・ウェアであり、公的な場での服装です。また、周囲の視線を意識することが必要です。また、標準服だけでなく、学校に着ていく服はすべてオフイシャル・ウェアだと話されました。つまり、私服で学校に来ていても、公的な場での服装であることを意識した服装でなければならぬし、附属高校生であるという自覚も持たなければならぬとのことでした。

講座の後半には、各クラスから一名ずつ前に出て、講師の中島先生から着こなしチェックを受けました。男女一名ずつは「シヨミ」で、極端になりませんでした。

質疑応答の時間が設けられましたが、男女一名ずつが質問をしました。こちらの方は「シヨミ」ではありませんが、質疑応答で、自発的な質問ができたこと、またその質問がなかなか深い内容だったことに、講座終了後、講師の中島先生と重栖営業部長様は感心されていました。

最後に、男女二名が謝辞を申し上げて講座は終了しました。



謝辞

二組 深澤 莉緒 さん

本日は、お忙しい中、私たちのためにお話してくださり、ありがとうございました。一番最初のオレンジジュースの話など、分かりやすいこととえと共にお話してくださったので、集中して聞かせていただくことができました。私は運動部に所属していて、普段標準服を着ることがあまりないのですが、学校に着てくる私服もオフイシャル・ウェアだということを知り、私服の選び方も気をつけていきたいなと思いました。

謝辞

五組 熊橋 拓海 さん

今までよく「第一印象が大切」という言葉を聞いてきました。今回の講座で研究データなどを知って、改めて先入観や第一印象が悪く思われると、印象の改善が難しいことが分かりました。また、標準服の着こなし方を学ぶことができたので、学校に標準服を着て行く日は、家を出る前に「3S」が守れているかを確認しようと思いました。本日は、ご講演ありがとうございました。



サクラになってくれた二人

緊張の続いた講座 三組 大北 莉久 さん

今回は違反している服装で、着こなし講座に参加しました。当日の五分前に、このことを言われたので、上手にできるか心配の中講座に参加しました。なので、講座中もかなり心臓がバクバクになるかと思っていました。しかし、思っていたよりは緊張せず、集中して話を聞くことができました。しかし、後半になるにつれて、緊張が増していき、登場したときは、緊張 Max でした。何とか上手にいったので良かったです。

演じることの楽しさ

四組 相原 美南 さん

私は、今までみんなの前で、自分へのイメージとかけ離れているものを披露することはありませんでした。でも、今回経験してみても、自分ではない人物を演じることの楽しさを知りました。講演会が終わった後、いろんな人から良かったよ、などたくさん声をかけてもらい、中にはいつもの私とかけ離れていて驚いたという感想ももらったので、みんなを驚かせられて嬉しかったです。講演会で習ったこともためになる話ばかりで、本当に良い日でした。

質問をした人とその内容

四組 西垣 うた さん

胸元のバッジ 校長先生がジャケットの胸元に付けていらつしやる SDGs のバッジや私たちの校章などのように、ジャケットの穴に何か付けておいた方がいいのですか。それとも何も付けなくてもいいのですか。

四組 前田 風牙 さん

ブレザーのポケット 四組 前田 風牙 さん
ブレザー、スリットのポケットには、ふたのような布がついていますが、外に出しておくべきなのか、ポケットの内側にしまひ込むものなのか、どちらが正しいのでしょうか。



11月以降の行事予定（1年生関連）

- 11月**
- 12日（土）第2回オープンハイスクール
 - 18日（金）防災教育・防災避難訓練 4限
 - 28日（月）県大生 附属高校授業参観
- 12月**
- 9日（金）第4回定期考査初日
 - 15日（木）考査最終日
 - 16日（金）生徒休業日
 - 21日（水）午前中授業、三者面談
～23日まで
薬物乱用防止講演会
 - 25日（日）冬季休業開始 ～1/9まで
- 1月**
- 9日（月）成人の日
 - 10日（火）課題考査
 - 12日（木）寮生集会（1・2年生）
 - 14日（土）大学入学共通テスト～15日
 - 16日（月）寮生を送る会
 - 17日（火）第4回高大連携授業
 - 26日（木）入試会場準備 16時完全下校
 - 27日（金）生徒登校禁止